

## 「島本理生&村田沙耶香オンライントークショー ―創作と変化―」 実施報告（HP版）

- ◆日時：令和3年11月20日（土）15：00～17：00（開場14：30）
- ◆会場：遊学館2Fホール
- ◆内容：昨年度は、コロナウイルス感染拡大のため中止となった本トークショー。10回目となる本年度は、講師に直木賞作家の島本理生さんと芥川賞作家の村田沙耶香さん、そして司会にはフリーライターの瀧井朝世さんのお三方を迎え開催することができました。

当日は、出演者は東京からのリモートでの出演でしたが、人気女流作家お二人のトークショーということもあり、会場視聴者約40名、オンライン視聴者約90名の計130名が参加。オンラインでは日本各地だけではなく海外からの参加もありました。

テーマとなる「創作と変化」について、これまでのキャリアを振り返っていただくと島本さんは純文学とエンターテインメントの両分野を行き来しながら書いてきましたが、そのループの中でアップデートするやり方が自分に合っていた、とのこと。村田さんは、デビューしたころは「膿んでいる自分」が原動力になっていたのが、最近は「小説自体に膿んでもらう」ようになったと表現されていたのが、非常に印象的でした。

また、作家としてのターニングポイントについて、村田さんは『コンビニ人間』（文春文庫）が世界30ヶ国以上で訳されたこと、島本さんは『夏の裁断』（文春文庫）が芥川賞受賞にいたらなかったことで純文学を卒業したことを挙げ、そこからの変化が大きかったと語っていました。

後半には、司会者の瀧井さんからお二人への質問やそれぞれお互いへの質問、そして視聴者からの質問にもお答えいただける時間もあり、あっという間の2時間のトークショーになりました。



- ◆参加者：130名（【会場】41名＋【オンライン】99名）

### <参加者 VOICE>

- ・創作の感覚的なことが聞けて面白かった
- ・お二人がリスペクトし合い、なおかつ仲が良い作家という関係性がとてもお話を聞いていて興味深く好感を持ちました。お二人の創作作業の違いがとても印象的でした。娘がお二人のファンで付き添いで参加しましたが、とてもお二人が好きになりました。本日は私にとって良い時間でした。
- ・テレビなどで編集された作家さんのインタビューを見たことはありましたが、編集されていない素の話し方を見るのは初めてだったので、貴重な機会となりました。山形でプロの作家さんの話を聞くイベントはほとんどないので大変良かったです。作家さん同士の質問が面白かったです。

- ・島本先生、村田先生のそれぞれの視点で感じている意識していること、無意識だけど見えていることもありとてもいい時間を過ごすことができました。
- ・講師のお二人の話が終始とても面白かったです。お二人の関係性を知ることができ、また、お互いについてのお話を聞くことができたりと、充実した二時間でした。
- ・講師の方々の執筆に対する姿勢など、非常に貴重なお話を伺うことができ、参考になりました。
- ・島本先生と村田先生、お二人の密な関係性によって内容の濃いお話が伺え、大変満足しました。
- ・島本さん、村田さんの素のままを知ることができ、これからまだ読んでいないお二人の作品を読む際にプラスになりました。いつか山形にいらしていただき、実際にお会いできるのを楽しみにしております。
- ・生まれて初めてトークショーに参加したのですが、大好きな作家さんの大好きな本の話だけを2時間たっぷり聞くことができ、これ以上ない幸せの時間でした。オンラインだったのでお二人と距離は離れていたけれど、心の距離はとても近かったです。

※トークショーの詳細については、「山形小説家・ライター講座」ホームページまたは Twitter からご覧いただけます。

HP

<https://yamagatakouza.fanbox.cc/posts>

twitter

<https://twitter.com/yamagatakouza>